



## 明治中学校版「学校と地域の連携推進モデル事業」

### 夏休み理科実験教室ボランティア活動



万華鏡づくりの様子

ボランティア体験を行った中学生の感想には、「小学生が分からないことを丁寧に教えることができた」「困っている子を見つけて自分から手助けできた」「周りを見る力が付いた」とありました。また、「協力することの大切さや、人との関わり方を学んだので今後に生かしたい」「教えてくれてありがとうと感謝してくれたのが記憶に残った」など、体験を通して得るものも多かったようです。

ボランティア活動を通して、地域の一員であることへの自覚が高まり、今後の活動への意識付けがしっかり行われたようです。

8月4日（木）に明治コミュニティセンターにおいて、地区の小中学生対象の理科実験教室「色をいろいろ変えてみよう」が開催されました。

講師は地域にお住まいの元教員である川俣将世先生で、夏休みに毎年理科実験教室を行っています。今回の学習内容は酸化還元反応による色の変化や偏光板万華鏡づくりでした。

この実験教室には、7名の生徒が学習ボランティアとして参加し、実験のサポートや万華鏡づくりを小学生と楽しくお話をしながら一緒に活動するなど、貴重な体験をすることができました。



川俣先生との事前打ち合わせ

### 校内研修（8月4日）を実施しました！！



オンライン校内研修の様子

「学校運営協議会と地域学校協働活動」とは何かをテーマに、一般社団法人とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬 隆人 氏（元宇都宮大学教授）を講師にお招きし、オンラインによる研修を実施しました。研修は、「コロナ禍で地域と連携できない。つながりをどう構築するか。」「学校側と地域・家庭側で求めているものの温度差（違い）があるのではないか。」という学校と地域の連携活動に対する先生方の不安に廣瀬先生が回答する形でスタートしました。

学校運営協議会によって、先生方が安心して学業指導できることや、良い学校は保護者や地域の協力があり、それは地域のつながりがしっかりしていること、学校教育で行っていることは、全て社会につながる事など、多くの示唆が得られました。

#### <参加した先生の感想>

地域を愛する子供や、地域に貢献できる子供を育てるということは、上三川町にしばりつけることではないというお話が印象に残りました。

また、地域連携は、人間関係の在り方そのものを私たちが協働して構築していくことだと感じました。新しいことを始めるというよりは、今やっていることを継続していくことが大切だということが分かり、今まで緊張感や抵抗感で身構えてしまう部分がありましたが、これからは気軽に考え、学校と地域それぞれが立ち入りやすい環境をつくっていきたいと感じました。